【研究テーマ】

□ ICTを活用した防災教育・防災訓練の開発と普及モデル

キーワード：防災教育，SNS，リスク教育，防災訓練

プロジェクト研究所の概要

静岡大学現代教育研究所　防災・リスク教育プロジェクト

現在，AIやSNSを活用した対話型災害情報の提供（SOCDA）など，災害時におけるICTの利用に関する実践や研究が進められています。こうした災害時におけるICT活用が進む一方で，災害時におけるSNS上での誤情報・虚偽情報の流布が社会問題となっています。例えば，2016年の熊本地震では，20歳の男性がTwitterに「地震のせいで動物園からライオン放たれた」などと虚偽情報を投稿し，熊本市動植物園の業務を妨げたとして逮捕されました。また，現在のコロナ禍においてもこうした誤情報や虚偽情報のSNS上での流布が見られます。

これらを現状を踏まえると災害時を含め，リスク対応にあたっては，AIやSNSなどのICTを上手に使いこなしつつ，情報の真偽を見極める力が求められます。その一方で，従来の地域や学校における防災教育・防災訓練ではICTの有効な活用方法について検討する教材がほとんど見られませんでした。本研究プロジェクトでは，ICTを活用した防災教育・防災訓練の開発と普及モデルを開発し，静岡県内の地域防災や学校防災での普及を図っています。

教材の紹介
LINEみらい財団×塩田研究室

社会連携へ向けたアピールポイント

本研究所では，教育学部に所属する教育学，倫理学，心理学などを専門とする教員が中心となり，学際的な視点から防災・リスク教育の開発・提供をてがけてきました。2020年度から，これまでの研究を生かし，静岡大学防災総合センター，静岡県地震防災センター，浜松市防災学習センターといった専門機関と連携しつつ，静岡県内の高校と連携して，高校生を対象とした防災教育プログラム「防災ユースアンバサダープログラム」を実施しています。「防災ユースアンバサダー」プログラムでは，ICTの活用をはじめ，地域防災を担う青少年の育成を目指しており，専門的トレーニングを受けた大学生たちが高校生による防災講座の実施を指導・支援しています。

駿河総合高生が防災の"先生"に

学生にアドバイスをもらいながら防災の指導方法を考える生徒ら＝静岡市駿河区の駿河総合高

園児指導へ 方法学ぶ

静大生からアドバイス

静岡新聞 令和3(2021)年9月11日掲載

プロジェクト研究所 所長

藤井　基貴
学術院教育学領域
学校教育系列
准教授

■ 研究所メンバー（客員含）

- 藤井基貴（教育）
- 中村美智太郎（教育）
- 塩田真吾（教育）
- 村越真（教育）
- 山本隆太（学環）
- 井柳美紀（人文）
- 大木聖子（慶應大）
- 加藤弘通（北海道大）
- 吉田和人（順天堂大）
- 園田正世（東大院）

■ 相談に応じられる関連分野

- スポーツ・インテグリティ教育
- 防災・リスク教育
- SDGs教育